

インターンシップ

大学在学中に自らのキャリアを真剣に考え、自ら将来を創造する行動力を伸ばすための教育プログラム。企業などでの就業体験を通じて、自立した社会人に必要な態度・能力の修得を目指します。

実習先企業数(2018年度実績)

派遣実習生数(2018年度実績)

146社 **437名**

株式会社ガンバ大阪/株式会社三井住友銀行/株式会社りそな銀行/三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社/株式会社毎日新聞社/株式会社JB西日本/株式会社日本旅行/株式会社クラブメッド/ザ・リッツ・カールトン大阪(株式会社阪神ホテルシステムズ)/キッザニア甲子園(KCJ GROUP株式会社)/富士通株式会社/富士ゼロックス大阪株式会社/リコージャパン株式会社/株式会社大林組/株式会社熊谷組/大阪トヨタ自動車株式会社/株式会社神戸マツダ/茨木市役所/履屋川市役所/その他多数

本学では、2000年度から経営学部において正規の授業としてインターンシップをスタートしました。2001年度には全学部の3年生を対象に実施し、2015年度からは全学年を対象としています。導入以来、10年以上の実績を有しており、この間多くの事業所のご協力をいただいています。2018年度夏期は365名の学生を実習の場に送り出しました。さらに、冬期・春期のインターンシッププログラムを開発し、より多くの学生に参加を促していきます。今後も産業界のニーズに対応した人材育成のコア・プログラムとして、インターンシップの新たな可能性を模索し、学生の指導と教育により一層力を注いでいきます。

インターンシップ受入の流れ

Step 1 [受入先様] **【受入表明】** お申込み方法：<https://www.otemon.ac.jp/career/corporate/internship.html>
受入に関する基本情報(事業所概要、研修内容、条件等)を上記URLよりご登録ください。
▶**インターンシップ担当にお問い合わせください。Tel. 072-665-5271**

Step 2 [本学] **【学生募集・事前学習】**
受入先様から頂いた情報をガイダンス等で公開・PRします。また事前研修で、目的意識、ビジネスマナーなど、実習に必要な考え方・知識を習得させます。参加態度・意欲等総合的に判断したうえで、実習先マッチングを行い、受入先様へ派遣予定をお知らせします。

Step 3 [受入先様] **【受入の検討・決定】**
本学からの派遣予定学生情報をご検討、ご承諾をいただきました場合は、マッチング成立となります。受入先様で選考される場合は、必要手続きのご指示をお願い致します。

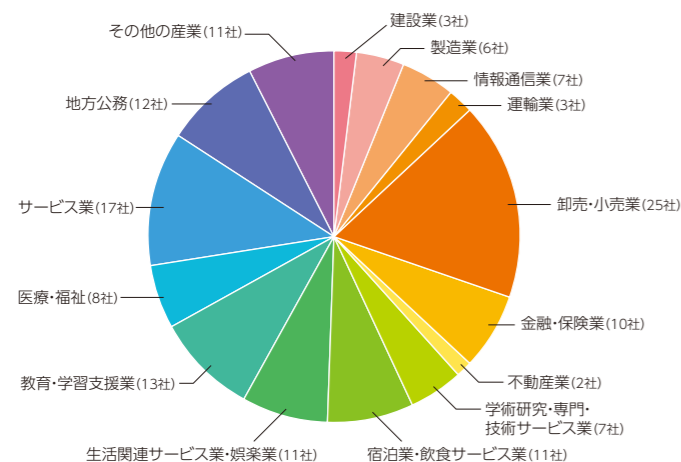
Step 4 [本学] **【受入に係る手続き】**
マッチング成立後、実習に入る前に、必要事項の確認、覚書・誓約書等の手続きを行います。実習開始までに、学生からは電話連絡・事前訪問をさせていただきます。

Step 5 [受入先様] **【実習】**
実習に入っただき、学生の実習日誌・実習レポート作成等を含め、ご指導・ご協力をお願い致します。実習終了後は実習終了書(評価表)の作成をお願い致します。

Step 6 [本学] **【事後学習】**
学生に向けて事後研修を実施します。実習を振り返り、学び・気づきを今後の学生生活にどう反映していくかを考えます。

Step 7 [受入先様・本学] **【実習報告会の実施】**
大学にて実習報告会を実施します。受入先様にもご出席いただけましたら幸いです。

■ 受入事業所数 総数146社 [産業分類別]



■ インターンシップ参加者数 総数437名

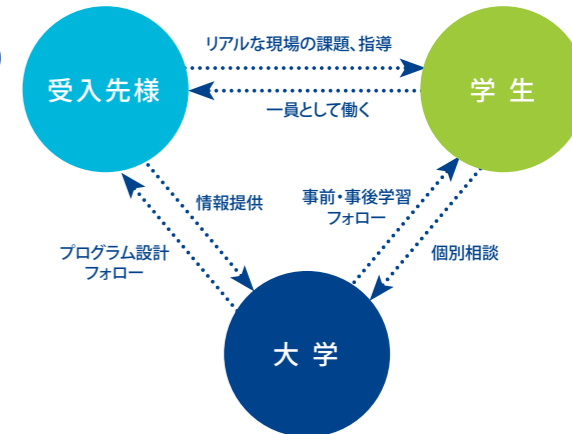
学部	参加学生数				合計
	1年	2年	3年	4年	
経済学部	24	26	32	2	84
経営学部	30	25	52	2	109
社会学部	17	12	18	1	48
地域創造学部	13	15	11	3	42
国際教養学部	23	8	34	1	66
心理学部	30	28	17	8	83
(交換留学生)	5	0	0	0	5
合計	142	114	164	17	437

追大実践型インターンシップの取り組み

追大実践型インターンシップとは…

受入先様の“リアルな課題”に取り組む実践型のインターンシップです。経営者のアイデアを形にしたい、社員の人材育成力を高めたい、チャレンジし続ける社風を強化したい、人材採用の課題を解決したい…など、受入先様が抱える課題の解決にインターン生を活用してください。

学生は社会で求められる力を養うことができ、受入先様にとっては自社の課題解決につながる、双方にとってメリットのあるプログラムを設計しています。



2018年度参加学生の声



【実習先】
紀州白浜温泉むさし
地域創造学部
地域創造学科1年
(修了時)
中野 悠輔さん

インターンシップではどんな活動を?

白浜の温泉旅館の社員寮に2週間住み込みでのインターンシップでした。最初の1週間は旅館の全般業務を経験し、主にバイキングレストランの運営とクローク業務、後半の1週間は参加者5名が2チームに分かれて、プロジェクトに取り組みました。私のチームは、学生向け宿泊プランの作成プロジェクトに取り組むため、和歌山の観光地を視察し、プランに必要な情報(お金・時間・ニーズ)を収集した上で、会議室でプラン作成会議を繰り返しました。広報部の社員さんの意見を聴きながらプラン内容を検討した上で、実習最終日に社長に対してプレゼンテーションを行い、その結果、観光地スポットの写真を撮ってSNSにあげると、温泉チケットや割引券などのサービスが受けられるというプランを商品化していただくことができました。

インターンシップを通じてどんな発見や気づきがあった?

中学、高校時代にも職場体験を経験しましたが、今回のインターンシップはより実践的で、深い学びがありました。実際に商品化できるようなプランにたどり着くまでには、社員さんからダメ出しがあったり、ボツになった企画もありましたが、その時に「プロジェクトの目的」をしっかり理解した上で取り組むことの大切さが身にしみてわかりました。たとえば、最初白浜は夏は繁忙期で満員なのに、夏限定のプランを提案してしまったのですが、それを指摘された時に、目の前の課題にとらわれすぎて、根本的なところが見えなくなっていたことに気づきました。

社員さんからの言葉で印象に残っているのは「失敗してはダメ」という教えです。これは、何も考えずに取り組んではいけないという意味で、どうしたら失敗しないかを常に考えながら取り組まなければ、成長につながらないということです。インターン生を育ててくださっていると実感できるありがたい言葉でした。この言葉は、実習後の学生生活にもずっと役立っています。温泉旅館ならではの学びとしては、和装での礼儀作法や、下駄や着物の裾さばきがスムーズにできるように、アルバイト先の飲食店でも役立っています。

海外インターンシップ

あらゆる業種にとって、今やグローバル化や海外進出は避けて通れない時代となっています。海外インターンシップでは、海外で働く経験を通して、各国の経済状況や文化を体験し、働き方や文化の違いを学び、さらにコミュニケーション力、異文化理解力、積極性、責任力、問題解決力等、変化の激しい時代に求められる能力を身につけます。本学ではベトナムのほか、各国で海外インターンシップを展開しています。

実践型海外インターンシップinベトナム

言葉や文化の異なる場所でも成果を出せるグローバルマインドセットを育成する本学独自のグローバル人材育成プログラム「実践型海外インターンシップ」。従来の就労体験やケーススタディ主体のものとは異なり、海外展開を仕掛ける日系企業が抱える実際の課題に対し、学生自らが現地調査のうえ解決策を提案します。

インターンシップでは2週間の日程でベトナムを訪れ、1週間のビジネストレーニングを経たうえで、飲食店出店を成功させるための調査ミッションに取り組みます。現地の人々を巻き込み、協力を得ながら、店舗視察やアンケート調査を実施。言葉や文化の異なる“アウェイ”的环境下で、ミッション達成に向けて悪戦苦闘する経験を通し、どのような状況においても成果を出すために必要なスキルの重要性に気づき、マインドセットを身につけます。

参加学生の声

初めてベトナムの町に出た時は、現地の方に話しかける勇気がなく、全く行動に移せませんでした。けれど、ミッションを進めていくうちに、人に話しかけることに抵抗がなくなり、やりぬくことができました。(参加当時：国際教養学部1年)

